

## くらしと協同の研究所 院生事務局紹介



**氏名：**畑岡 孝哉（はたおか・たかや）

**所属：**京都大学大学院農学研究科、生物資源経済学専攻・比較農史学分野

**研究分野：**農業史（18～19世紀のドイツ）、農学史（ヨーロッパにおける近代農学の歴史）

**所属学協会：**日本農業史学会、ドイツ現代史研究会、政治経済学・経済史学会、テア振興協会（Fördergesellschaft Albrecht Daniel Thaer e.V.）、農業史協会（Gesellschaft für Agrargeschichte e.V.）  
**主要業績：**「A.D. テアの実験農場—『私のメークリン農場史』にみる農場経営の実態—」（修士論文）

このたび、院生事務局の一員となりました畑岡 孝哉と申します。私は兵庫県姫路市出身で、のどかな田園風景が広がる地域で育ちました。父方が祖父の代まで稲作の兼業農家だったこともあり、種まき、田植え、稲刈りの時期はよく手伝いに行っていました。5月の連休に祖父の畑でいちご狩りができることは、毎年の楽しみでした。そうした背景もあり、農業への関心がありました。高校の地理で、ドイツの農業地理学者チューネン『孤立国』に出会い、農業経済学へといざなわれました。そうした経緯から、長崎で4年間の学生生活（学部生）を過ごしました。ところが、学部時代にある先生から「チューネンに関心があるのなら、彼の先生であったテア（Albrecht Daniel Thaer, 1752-1828）を研究したら面白い」とご助言いただき、今の研究につながっています。

その研究とは、18～19世紀のドイツにおける近代農学史の研究です。とくに、同時期に近代農学を体系化したといわれるテアが活動した農場および農業教育学校（通称は農業アカデミー）の実証研究と、それらの実証研究から、近代農学を歴史的な視点から捉えなおす試みです。ところで、テアとは何者なのでしょう

か。テアは1752年、ドイツのハノーバー公国（当時）の医者の家系に生まれ、当初は父の跡を継いで医者をしていました。しかし、1780年にハノーバー公国の宮廷医になったことを契機に、当時同公国の親分であったイングランドの文献からさまざまな知識や文化などを学ぶ機会に恵まれたのです。テアはやがて、農業へと関心に向け、故郷のツェレで農場（総面積は約36ha）を開くに至りました。しだいに、ツェレ農場での農業実践は注目されるようになり、当時のプロイセン国王・ヴィルヘルムⅢ世は、テアがプロイセンのメークリン農場に来るよう説得しました。当初は気の向かなかったテアですが、1804年にメークリンへの移住を決意し、メークリン農場（総面積は約300ha）での農業実践を始めることになったのです。このとき彼は52歳で、メークリンでも農業実践と教育の試行錯誤を重ねていきました。そうしたなか、1809～1812年にかけて『合理的農業の原理』を刊行し、周辺地域・国にもしだいに影響を与えました。同書によって、テアは、しばしば体系的な近代農学の創始者と呼ばれています。彼は晩年、視力の衰えなどで身体が不自由になっても、農業実践や教育に余念がなかったといい、1828年に76歳でこの世を去りました。

さて、研究紹介させていただきましたが、上手く伝わりましたでしょうか。自分の研究をできる限り多くの人に平易に伝えることの難しさを感じずにはられません。むすびに、紙面が許す限り、私自身が大事にしていることを2つお伝えしようと思います。1つ目は、「おかげさま、おたがいさま」です。日々の暮らしでは、

さまざまな人に支えられていますし、自分もまた誰かを支えているのかもしれない。どんな些細なことでも「おかげさま、おたがいさま」と感謝の気持ちを忘れないよう、心がけています。2つ目には、自分の足で確かめることです。私は旅行が趣味ということもあり、現場に足を運ぶことを大事にしています。史料調査のときも、

周辺の街並みや、ところによっては農村に足を運びます。そこで出会う人々、食、文化などもまた醍醐味です。もちろん歴史研究では史料が一番大事なものであることには変わりありませんが、その歴史を今に伝える現場も大事にしたいです。



氏名：岩男 望 (いわお・のぞみ)

所属：京都大学農学研究科博士後期課程

研究分野：農村社会学、地域社会学

所属学会：地域農林経済学会・日本村落研究学会・環境社会学会

主要業績：岩男 望 (2021)「世界農業遺産はどのように地域振興に役立つか—徳島県にし阿波地域における農業者の農業継続意思に着目して—」『農業と経済』87(4)、pp.104-114。

研究内容など：

農業や食に対するほんやりとした興味・憧れと、人や社会を扱う文系学問への関心から農学部の中にある文系の学科を志望して入学しました。今は主に農村における地域づくりや人の暮らしに関心を持って、徳島県西部のにし阿波地域というところを対象に、世界農業遺産認定の影響についての研究をしています。にし阿波地域は、2018年に世界農業遺産の認定を受けました。みなさんは「世界農業遺産」についてご存じでしょうか？私は所属していた農業サークルの活動でにし阿波地域を訪れるまで、世界農業遺産の存在を知りませんでした。

世界農業遺産とは、世界的に重要な価値をもつ伝統的な農林水産業を営む地域（システム）を、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。日本にも認定地域が15か所あり、近畿地方では、滋賀県の琵琶湖地域（琵琶湖システム）や兵庫県の兵庫美方地域（但馬牛の飼育システム）が認定されています。

農業は人々にとっての生業であり、また、農業システムは自然環境や社会のあり方によって変化していくものなので、「遺産」でありながら変化していくものでもあります。よく知られているユネスコ世界遺産は「現状をそのまま保存する」ものですが、それと対比して、世界農業遺産は「生きた遺産」であると言われます。

高齢化や過疎化などの変化によって、今の農業のあり方を続けることに難しさがある中で、人々が遺産に対してどのように認識し、その価値をどのように受け止めて、どのように将来に向かっていこうとしているのか、ということに関心を持って、地域の方々のお話をうかがうインタビュー調査をしています。にし阿波地域では、山間部傾斜地の厳しい環境や社会構造の変化に合わせて換金作物を柔軟に選択・変更してきた生業の歴史があります。遺産になったことでにし阿波地域の農業の価値が見直されたという側面もありますが、人々は遺産だからという理由だけで農業を続けているわけではありません。遺産の文脈に収めることのできない個々の農業者の思いや経験についても明らかにしたいと思っています。

くらしと協同の研究所に院生事務局としてかわらせていただいてからあつという間に3年

が経ちました。大学院生としての本業？は農村社会学の研究ですが、以前から社会福祉や社会問題に関係する分野にも関心があります。くらしと協同の研究所の活動で幅広い分野について

学ぶ機会をいただき、また、様々な方と交流する機会や様々な団体へ取材に行く機会をいただいで、非常にありがたく思っています。引き続きどうぞよろしく願ひいたします。

事務局  
だより

## 募金・寄付等のご紹介

今回取材にご協力いただいた団体様の、募金・寄付等をご紹介します。

今までも「くらし」の現場における「協同」の実践により、社会的課題に取り組む多くの団体様に取材のご協力を賜り、お話を伺ってきました。そのお話の中で非常に多かった、「募金や寄付等の紹介をしてくださったら助かります」というお声を受け、「募金・寄付等のご紹介」を「事務局だより」として発信いたします。

※詳細は、各団体までお問い合わせください。

### 特定非営利活動法人 エルファ

601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12 TEL 075-693-2550 FAX 075-693-2555

賛助会員 個人 年会費 1口 2,000円  
団体 年会費 1口 10,000円

#### ご送金方法

郵便振替 口座番号：00940-1-124697 加入者名：特定非営利活動法人エルファ

銀行振替 銀行名：京都中央信用金庫

支店名：八条口 口座番号：0286275

口座名義：特定非営利活動法人 エルファ 理事 朴錫勇

トクヒ) エルファ リジ パクソギョン

HP <https://lfa-kyoto.org>



ホームページ

### 特定非営利活動法人 コリア NGO センター

544-0034

大阪市生野区桃谷 5-5-37 いくのコーライプズパーク A 棟 2 階

TEL 06-6711-7601 FAX 06-6711-7606

【三井住友銀行 玉造支店 普通】

口座番号 6448149

口座名 特定非営利活動法人 コリア NGO センター

トクヒ) コリアエヌジーオーセンター

【郵便振替】

口座番号 00910 - 6 - 75263

口座名 特定非営利活動法人 コリア NGO センター

トクヒ) コリアエヌジーオーセンター



ホームページ



寄附用サイト